



発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0021

TEL 093(201)0680 FAX(201)7354

第292号

## 中朝国境を歩いて考えたこと 広報・岩本

先日、小さな船で日本海を渡ってきた北朝鮮難民のニュースが流れました。この脱出は彼らにとって命懸けだったと思います。

同じ頃、私は中国側の国境の山、長白山(朝鮮名・白頭山)に登っていました。ここの登山口から尾根に出るとそこが国境になっていました。そこで北朝鮮側に出て、国境の標識の前で記念撮影をしました。気温は5℃で強風のため縦走はあきらめ下山しました。

帰国前日に、国境の橋がある函門の町を訪れました。国境を流れる豆満河は狭いところで川幅がわずか30m程度でした。冬は凍って簡単に渡ることが出来るそうです。

中国側の川岸は整備されていて、橋の近くは公園となって観光地化しているのに対して、対岸は草や木が生い茂っていました。良く見るとこの草の陰に警備兵が中国側を見張っていました。草や木が塀になっているのでしょうか。

対岸に点々とある人家には人の気配が全く無く、不気味な雰囲気です。その横を貨物列車が歩くくらいのスピード走っているのも見えました。

人が生活するのに最低限の人間らしい

生活が出来ることを補償されるのが国の政策と思うのですが、人の気配が全く無い不気味な村落を遠望すると、その国の人たちが余りにも可哀想で同情せざるをえませんでした。

そのような悲惨な生活を強いられている人たちの心を支えているのは何でしょうか。信仰の自由も無く、国家の指導者を崇拜することの異常さはイラクやリビアの強権政治と同じです。

先日、小倉教会で憲法20条に関するシンポジウムがありました。20条の改定を考えている国会議員は増えています。この条項には信教の自由が書かれています。日本司教団はこの問題を深刻に考え、改定反対の声明を出しています。信教の自由、移動の自由、発言の自由のある国で生活することの大切さを感じた旅でした。

老宣教師の忘備録	2・3面
小教区委員長挨拶	3面
委員会報告	4・5面
典礼委員会報告	5面
子ども達のページ	6面
聖書への案内	7面
今月の聖人	7面
おしらせ	8面
西山さん短歌	8面

## 老宣教師の忘備録

東京教区司祭

ジョルジュ・ネラン

## ※この掲載を始めるに当たって

最初にこの文を書かれたジョルジュ・ネラン神父の紹介をしなければなりません。

ネラン神父は、1920年フランス・のリヨンで生まれました。陸軍中尉を経て、1950年に司祭叙階。遠藤周作さんらの留学を受け入れました。1952年に来日しました。80年に新宿歌舞伎町で、スナックバー「エペポ」を設立。エペポではバーテンダーとして、店に訪れるさまざまな人の悩みや人生についての相談に耳を傾け、キリスト教の枠を超えて人々と関わりました。

「エペポ」のことについては、NHKなどのテレビでも何度も取り上げられたので、記憶されておられる人もいるかと思います。教会でもさまざまな仕事をされました。

残念ながら、今年の3月24日亡くされました。91歳でした。

この文は、「福音宣教」2010年10月号に掲載されたものです。 (広報委員会)

## はじめに

宣教師の定義をしてみたい。まず宣教は司牧と区別しなければならない。司牧は対象が信者であり、宣教の対象は信者でない人である。その区別は明瞭であり、決定的である。

ところが、教会は宣教司牧という言い方をしている。宣教司牧の実情を司祭が認識しているかどうかは分からないが、この言い方そのものが間違いだと言いたい。宣教司牧という言葉を受け入れると、宣教は事実上、置き去りにされてしまう。つまり、宣教は司牧よりもはるかに困難であるから、宣教司牧は司牧になってしまうのだ。

## 戦後の一時期、成功した宣教

過去をたどってみると、戦後、日本ではキリスト教が一時的に発展した。これは教会が教育という分野で果たした大きな成果だと思う。戦後すぐにGHQ(連合国軍・最高司令官総司令部)は、戦前の皇国史観による国家主義的な教育が戦争を引き起こした原因の1つであると断定し、日本の学校教育が戦争を引き起こした原因の1つであると断定し、日本の学校教育の改革を行った。その結果、日本の公教育は混乱を極めた。そのすきを突いて、多くの修道会が修道士や修道女を外国から日本に招き入れ、カトリック教育の名のもとに幼稚園、学校、大学を開設し、間接的にキリスト教を浸透させていった。学校に通っている間に洗礼を受けた学生・生徒はかなりの数になるだろう。だが、その後の教会の対応の仕方が宣教ではなく司牧であり、その司牧も魅力がなかったのだろう。社会に出てから教会に行かなくなった人たちの数は少なくない。それはともかく、学校教育を通して社会にカトリック教会という存在を知らしめたという点では宣教は成功したと言ってよい。



## 委員会等報告

2011年9月分

## 9月度小教区委員会

9月4日

## 1、議題

## (1)地区集会の実施日(地区別)

9月25日 赤間、芦屋、梅の木、

10月2日 海老津、折尾、遠賀

10月16日 青葉、中間、吉田

(日程は、地区ごとに、相談してよい。)

## \*議題

## ①街頭募金の実施について

## ②親睦会について役決め(下記参照)

## ③馬小屋設置の件④教会への意見を自由に

## ⑤教会入口のシャッター設置の是非(25万円程度かかる可能性あり)

(14日の典礼委員会を経て、「多くの人に教会の仕事を募集するアンケート案」等について、議題を追加する。)

(2)敬老のお祝い会 9月11日 29人予定  
ふくれ饅頭(有志、但し実費払う)とお吸物作り。委員全員の参加確認をした。(3)北九州信徒協 親睦レクリエーション  
集合8時00分(変更に注意)、バスで出発。  
雨天時は中止とするが、そのときは8時に弁当を取りに来ることとする。

## (4)小教区親睦会(教会バザー)

11月20日(日) 食事は、カレーライス、焼き鳥、飲み物(ノンアルコール)  
100円×5=500円、等の前売りチケットを準備する。

\*18日(金)新田原に野菜を取りに行く。

\*19日(土)9時集合、野菜の仕分けと値段付け。

\*20日(日)人員要員、カレー作り、野菜の販売、等

\*各地区から準備のため2名ずつ(土曜も日曜も)参加してほしい

\*手芸品等を個人出展可。但し、売れ残りは持ちかえること。参加者は1週間前に教会役員に連絡すること；自主的に、焼きそば作りなども可。

## (5)クリスマスの馬小屋

・新しく「台」を用意している。組み立てなくても済むもの。

・LEDへの変更の考えもあるが、まだ、現状使用のものが使える。

## 2、各委員会から

(1)教会、幼稚園の電気料金システムを分離した(8月3日)。費用22万円。後に、水道、ガスの分離も考えたい。

## (2)典礼委員会より

・信徒協典礼部会(10月2日実施)  
典礼の改善等について、各教会で考える。  
次回会合で報告することとなった。

・典礼委員会が率先し、「多くの人に教会の仕事を募集したいアンケート」を実施したい。そこで「私ができる仕事」を率先して考えて頂きたい。

## 3、その他

・役員会への代理出席(地区委員等)について、地区委員に委任を受けて来ればよい。委員会出席後は、地区委員に会議の用件を伝える事。

- ・代理出席について、司祭か教会委員長に報告するならばベストであるが。しばしば代理出席に頼らざるを得ない地区もある。
- ※これからの予定
- ・9月19日(月)親睦レクリエーション(上記)
- ・9月～10月、地区集会(上記)
- ・10月2日、黙想の家で語り合う集い(2時から)生きた典礼とミサ
- ・11月1日(火)諸聖人の祝日
- ・11月3日(木)召命の集い

## 2011年度 第4回 典礼委員会議事録

開催日時：2011年9月14日(水)19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、柴田、三谷、松尾定五、安永、山本、矢田

### 《報告事項》

- 1 平和の集い(小倉教会 15名がバスで参加)
  - ・霊的花束
  - ・平和献金(事務局の判断で中止)
- 2 一信徒からの投書
- 3 「仕事と活動」アンケート(試案)を9月4日小教区委員会に提出
- 4 第5回 黙想の家で祈り語り合う集い(10月2日)案内チラシ(9月2日配布)
  - 「生きた典礼とミサ」(信徒自身の自覚と積極的ミサ参加をめざす)
- 5 北九地区信徒協典礼部会(8月28日) 各小教区研修会での方向性
  - 湯川教会—教会からはなれている人への働きかけ、次世代への信仰伝承、
  - フリートーキング(ミサ後12時くらいまで本音を話し合う)
  - 行橋教会—一年3回くらい学び合いのためのフリートーキング
  - 門司教会—朗読のやり方(ゆっくり、はっきりと) 新田原教会—他の小教区との交流。
  - 24年1月22日(日)各小教区での実施状況を資料つきで報告。
- 6 司会交代 9月18日(樽角氏→吉岡氏) 10月2日(浜口氏→山本氏)

### 《審議事項》

- 1 「仕事と活動」アンケートは、事務局より地区集会に提案してもらう。
  - ・教会の仕事・活動に信徒の参加を促し、新しい人材も募る。
- 2 10月2日(日)黙想の家で祈り語り合う集い テーマ「生きた典礼とミサ」
  - 「教会は何のためにあるのか」「わたしは何を信じているのか」等を小グループで語り合う。
- 3 教会学校の現状 日曜日のミサ後では十分な時間が取れない。
- 4 「十字架の道行きの祈り」150部増刷予定どおり。
- 5 典礼聖歌研修会の日程(深堀 純氏) 24年2月5日(日)
- 6 「投書」について。氏名不詳の意見には対応できない。
- 7 10月2日(日)9時10分よりロザリオ一連(アベマリアの祈りを使用)

\*次回予定 2011年 10月5日(第1水曜日) 信徒会館

## 子どもたちへのページ



ここに「からしだね」を植えること

あきになるとたんぼは稲が実って黄色くなります。稲は何か分かりますね。私たちが毎日食べる米です。米の種の一粒から何粒の米が出来るのかは数えたことはありませんが、50粒以上あるでしょう。一粒が50倍になるのです。

聖書には「からしだねのたとえ」があります。

『天の国はからし種に似ている。人がこれをとって畑に蒔けば、どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜より大きくなり、空の鳥が来てえだに巣を作るほどの木になる。』(マタイ 13章 31～32節)

イエス様の国でできる「からし」は生長すると5メートルにもなります。その花は黄色です。そしてたくさんの種を実らせませす。

日本にも「からし」はあります。春に遠賀川の土手に咲く黄色の菜の花のほとんどが「からし菜」です。この花が実ると小さな直径1ミリくらいの種ができます。イエス様の国のからしも同じように小さな種が出来るのでしょね。

みなさんは毎月教会学校で勉強しています。この勉強では聖書や教会のことを学んでいますよね。これがみなさんの「からしだね」です。

子どもの時に、神様のことやイエス様の話を学ぶことは、みなさんがキリストの弟子になるための種なのです。

これまで5回、子どもたちのページで聖書のことを書きましたが、少し難しかったことと思います。しかし、聖書を知らないとは本当の信者になれません。聖書にはイエス様が話されたことや、弟子たちが話したこと、そして弟子たちがイエス様のことをどのようにして人々に伝えて行ったかが書いてあるからです。

キリスト教徒は何かあるとき、「こんなときイエス様はどうされるでしょうか」と考えないとはいけません。その疑問の答えは聖書に書いてあります。聖書を読むことは、自分の心の中に「からしだね」を植えることです。

この話を書いてある教会報の名前は「からしだね」であることを忘れないで下さい。

## 聖書への案内 No.21

## ヨナ記

聖書の勉強を始めた時、先生が最初に言った話をよく覚えています。

「聖書には難しいものばかりではありません。雄大な話もあればコミックもあれば三面記事もあります」簡単に読んだらヨナ記はコミックに当たります。大きな魚に飲み込まれたり吐き出されたりするからです。

しかし、内容を良く読むと深い意味があります。

ここに出てくる地名のニネベはアッシリアの都です。イスラエルの民を捕囚したアッシリアの都に行って主の言葉を伝えよと言われたヨナは怖くなって逃げ出したのでしょう。その後のヨナの苦難は、神への回心や主の心を伝えるために労苦を惜しんではいけないことを教えてくれます。

四ページしかありませんからぜひ読むことをお勧めします。



## 今月の聖人

## 7日 ロザリオの聖母

1571年、全ヨーロッパはキリスト教を滅ぼそうとするトルコ帝国の脅威にさらされていました。それに抵抗するために、ベニス、ゼノア、スペインの国々は教皇のもとで同盟を結び、ギリシャのレパント沖でトルコ軍の艦隊を全滅させ、ヨーロッパを守り勝利を得ました。この勝利は武力によるものではなく、ロザリオの祈りを聖母マリアにささげたことによるといわれました。そのため、時の教皇ピオ5世は、勝利の日を「ロザリオの聖母マリアの祝日」と決めました。



9月11日(日)

2学期 始業式

ミサの中で、2学期の教会学校の始業式を行いました。

勉強は25日から始めます。



# 10月のおしらせ

### ★土曜日のミサ★

夏の間、中止になっていた土曜日のミサを10月1日(土)から、再開します。

### ★第5回黙想の家で祈り語りあう集い★

日 時：10月2日(日)午後2時～5時  
場 所：カトリック福岡黙想の家  
講 師：来住英俊神父  
テーマ：生きた典礼とミサ  
参加費：300円(入館料)

### ★地区集会★

9月25日(日) 赤間、芦屋、梅の木  
10月2日(日) 海老津、折尾、遠賀  
10月16日(日) 高須青葉、中間、吉田  
ミサ後に行きます。詳しくは4面小教区委員会報告をご覧ください。

### ★水巻教会チャリティーコンサート★

日 時：10月16日(日)11時～12時  
場 所：水巻教会 聖堂  
入場料：500円  
「1～200番」のチケット代は教会寄付。201番～必要経費に  
指揮者：新垣壬敏 氏  
出 演：ザビエル合唱団(12名)  
※10月15日(土) 午後に練習します

### ★11月の予定★

11月1日(火) 諸聖人の日  
ミサがあります。  
11月3日(木) 召命の集い  
詳しいことは、来月号に掲載します。

折尾地区

### 西山寿美枝さんの短歌

一本の茎より立ちし十の菊

黄花輝く月の如くに

銀杏の黄色き落葉カラカラと

山里走る擲楯の如くに

茄子の葉のすがれし畑に実の垂れて

黒紫の並ぶ弧の秋

来た道を帰らず別の道を行く

すすき穂白く並ぶ川辺を

忘れ去る言葉たばねてゆく川辺

すすきの穂白きこぶしをにぎる

雨降れば水高の増し濁る川

流れの早く波紋を起こす

山茶花の垣のめぐりの日溜りに

つわぶきの花ひっそりと咲く